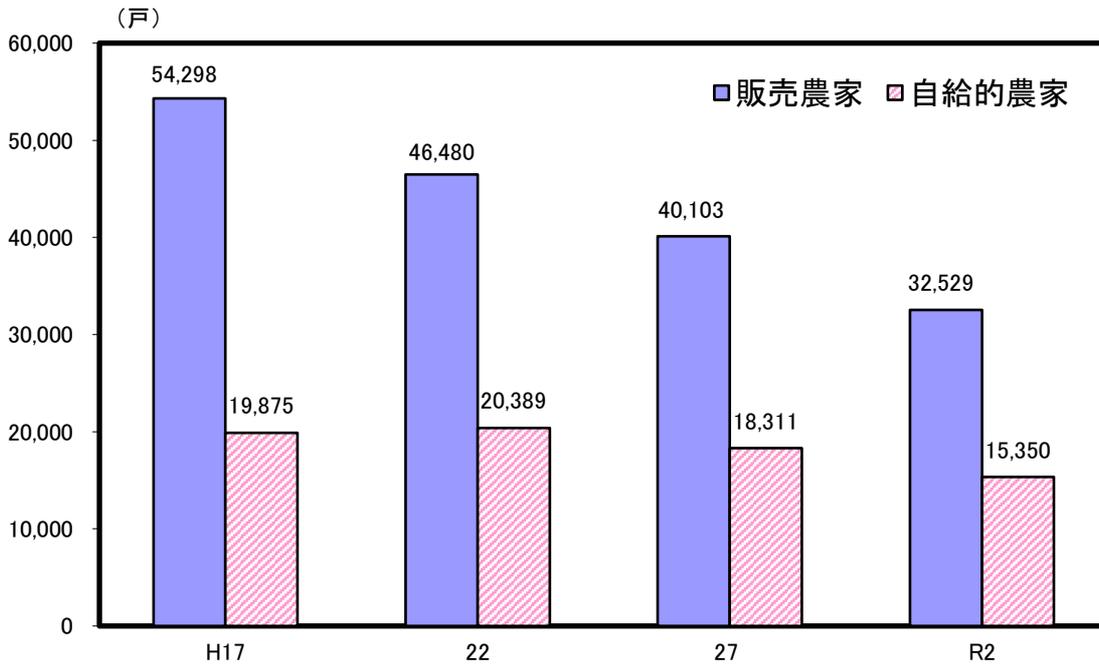


熊本県の販売農家数と自給的農家数の推移



解 説

【概要】

令和2年の県内総農家数は47,879戸で、前回調査時の平成27年から10,535戸(18.0%)の減少となった。減少幅には増減があるものの、一貫して減少しており、昭和60年の4割近くにまでなっている。

販売農家数32,529戸、自給的農家数15,350戸と、それぞれ前回から18.9%、16.2%減少した。

基幹的農業従事者の動向は、前回から20.5%減少し51,827人となった。年齢別では65歳以上が全体の61.3%を占めているが、全国平均の69.6%に比べると高齢化の割合は低い結果となった。

令和元年度の食料自給率(カロリーベース)は、前年度から3%減少し56%となった。全国は前年度から1%増加し38%となった。

○農家数

調査期日現在で、経営耕地面積が10a以上の農業を営む世帯、又は調査期日前1年間における農産物販売金額が15万円以上あった世帯数。

○販売農家数

経営耕地面積が30a以上又は調査期日前1年間における農産物販売金額が50万円以上の農家。

○自給的農家

経営耕地面積が30a未満かつ調査期日前1年間における農産物販売金額が50万円未満の農家。

○基幹的農業従事者

15歳以上の世帯員のうちふだん仕事として主に自営農業に従事している者。

○食料自給率

国内の食料供給に対する国内生産の割合を示す指標。

○食料自給率(カロリーベース)

基礎的な栄養価であるエネルギー(カロリー)に着目して、国民に供給される熱量(総供給熱量)に対する国内生産の割合を示す指標。

資料出所	調査期日	調査周期
*1,*2,*3「2020年農林業センサス」 農林水産省 *4「食料安全保障室」 農林水産省	令和2年2月1日 令和元年度	5年 毎年